

令和五年



片山定期能 四月公演

能	「三山」	味方	玄
狂言	「惣八」	茂山千五郎	
能	「雲林院」	片山	伸吾

令和5年4月22日(土)
午後1時開演(午後0時30分開場)
於／京都観世会館

主催／片山定期能楽会

片山家能楽・京舞保存財団内

tel.075-551-6535 fax.075-532-2841

片山定期能4月公演 [No.73-1]

令和5年4月22日(土)

午後1時開演 [午後0時30分開場]

13:00

能 三 山

—みつやま—

前シテ

後シテ / 桂子の霊

ツレ / 桜子の霊

ワキ / 良忍上人

ワキツレ / 従僧

ワキツレ / 従僧

アイ / 所の者

笛 杉 信太郎

小鼓 吉阪 一郎

大鼓 河村凜太郎

後見 青木 道喜

大江 広祐

味方 玄

橋本 忠樹

宝生 欣哉

宝生 尚哉

小林 努

茂山 茂

地謡 片山九郎右衛門

分林 道治

田茂井 廣道

大江 信行

深野 貴彦

梅田 嘉宏

河村 和貴

河村浩太郎

——休憩10分——

14:30

狂言 惣 八

〔大蔵流〕

—そうはち—

シテ / 惣八

アド / 有徳人

アド / 出家

茂山千五郎

網谷 正美

茂山 逸平

後見 井口 竜也

15:00

仕舞 難 波

シテ / 王仁

隅田川

シテ / 梅若丸の母

網之段

シテ / 桜子の母

船 橋

シテ / 男の霊

—なにわ—

大江 信行

—すみだがわ—

古橋 正邦

—さくらがわ・あみのだん—

片山九郎右衛門

—ふなばし—

浦田 保浩

地謡 橋本 磯道

青木 道喜

河村 和貴

浅井 風矢

——休憩10分——

15:30

能 雲 林 院

—うんりんいん—

前シテ / 老人

後シテ / 在原業平の霊

ワキ / 芦屋公光

ワキツレ / 従者

ワキツレ / 従者

アイ / 所の者

笛 左 鴻 泰弘

小鼓 林 吉兵衛

大鼓 河村 大

太鼓 前川 光長

後見 片山九郎右衛門

大江 信行

片山 伸吾

原 大

有松 遼一

岡 充

島田 洋海

地謡 武田 邦弘

古橋 正邦

河村 博重

分林 道治

深野 貴彦

梅田 嘉宏

大江 広祐

河村浩太郎

17:10頃 終了予定

演目解説

能 三 山 上演時間:約1時間20分

念仏の教えを弘めるべく、大和を訪れた良忍上人。彼が名所・大和三山のひとつ耳成山に向かうと、一人の女が現れる。聞けばこの大和三山には、ある昔物語が伝わっていた。それは、耳成の里の女・桂子と、畝傍の里の女・桜子とが、香具山の男を巡って争い、恋に敗れた桂子は耳成池に入水したというものだった。そう明かした女は、自分こそがその桂子の霊だと明かすと、耳成池の水底へ姿を消すのだった。

その夜、良忍が三山のお話を偲んでいると、桜子の霊が現れる。耳成の山風に吹き揉まれ、苦しんでいると訴える桜子。するとそこへ、桂子の幽霊が姿を現す。恨みの言葉を述べつつ、桂子の枝で桜子を打ち据える桂子。しかし桜子もまた、負けじと桜の枝で対抗する。そうするうちに夜は明け、二人は消えてゆくのだった。

観世流では近年まで現行曲ではなかったが、二十五世観世左近の依頼を受け、八世観世鏡之丞によって昭和60年に復曲上演された。そして平成12年、『松浦佐用姫』とともに現行曲として正式に加えられた。

狂言 惣 八 上演時間:約30分

このあたりの者が出家と料理人を召し抱えようと公示する。すると先頃まで料理人だった俄坊主と、最近まで出家であった「惣八」と名乗る料理人がやって来て雇われる。有徳人は僧には法華経を、惣八には鯛と鯉の料理を命じて奥へ入る。二人は互いに未熟な様子を見て助け合うことにするのだが……。

能 雲 林 院 上演時間:約1時間40分

『伊勢物語』を愛読していた芦屋公光は、不思議な夢に誘われて都へ上る。その夢では、紅の袴を召された女性と東帯姿の男性が伊勢物語の草子を持って行っていて、辺りの翁に尋ねると、あれこそ業平と愛人の二条后で、所は紫の雲の林だと語ったところで目が覚めたのだった。夢の通り紫野雲林院を訪れた公光が、盛りの桜の枝を一枝手折ると、一人の老人が現れてこれを咎める。老人は花を折ることの善し悪しを公光と古歌で争い、ついには木陰に寝て待て、夢の続きを見よと言いつつ消え失せる。

やがて公光のその夜の夢に、業平が在りし日の姿で現れ、『伊勢物語』の秘事を公光に明かし、月明かりの桜のもとで舞を舞う。そしてこの物語のことはいくら語っても尽きることはないといううちに、公光の夢は覚めてしまうのだった。

この曲は世阿弥作の『雲林院(古作)』を誰かが改作したもので、後段がまったく異なる。現行ではクセで二人が恋の逃避行をするくだりを美しく描くが、古作はそれを追ってくる二条后の兄・藤原基経の霊がシテで、鬼姿の四番目物となる。

次回公演の御案内

片山定期能7月公演

令和5年7月15日(土)

午後1時開演 [午後0時30分開場]

能 「自然居士」 橋本 忠樹

狂言 「とちはくれ」 小笠原由禰

能 「舍利」 梅田 嘉宏

入場料

[全席自由]

一般前売 4,000円

一般当日 4,500円

学生 2,000円

回数券 15,000円

(四枚綴)

チケット取扱所

京都観世会館

075-771-6114

9~17時 月休

片山定期能楽会事務局

075-551-6535

10~17時 土日休

会場 / 京都観世会館

京都市営地下鉄東西線「東山」駅下車 徒歩約7分



▽コロナ対策も緩和される方向に進んでおりますが、自己管理のもと、ごゆっくり御鑑賞くださいませ。
▽出演者等の変更がある場合は御了承くださいませ。
▽見所内での写真撮影・録音は固くお断り致します(指定業者を除く)。
▽同じく見所内での携帯電話やスマートフォンは、必ず電源をお切り頂きますようお願い申し上げます。
マナーモードも御遠慮くださいませ。